

○新京都戦略に掲げるウェルビーイングの見える化に向けて、令和 7 年 4 月から、京都大学（内田由紀子教授他）との共同研究を開始。

○共同研究の一環としてウェルビーイングに関する市民アンケート調査を実施（令和 7 年 8 月）。

1 調査目的

- 京都市民が感じているウェルビーイングの現状を把握する。
- 京都のまちのどのような要素が市民のウェルビーイングにつながっているのか、強み・弱みも含めて明らかにし、市民が感じるウェルビーイングの見える化と、その向上策について検討するための素材にする。

2 調査対象

20 歳以上の市民 2, 000 人 ※行政区ごとの人口構成比に基づき割付

3 調査方法

インターネットモニター調査

4 調査項目（次ページに「（参考 1）市民アンケート調査における設問項目」）

- 年齢、性別、居住地域、家族構成などの属性
- 心や身体の状態、自分自身の意識など、個人のウェルビーイングに関する基本的な項目
- 京都基本構想（仮称）で描く目指すまちの姿を踏まえ、自然、文化、つながり、シビックプライドなど、京都のまちの要素が市民のウェルビーイングにどのようにつながっているのかを検証する
京都市独自の項目

※ デジタル庁の地域幸福度指標等と同じ設問を含めており、それらは他都市と比較可能。
各設問の内容は、内田教授を中心とする京都大学研究室と協議を重ねて作成。

（参考１）市民アンケート調査における設問項目		
設問の種類	設問数	設問内容の例（概要）
属性	1 4 問	年齢、性別、居住地域、居住年数、同居者の構成、職業、京都で暮らして何代目か　等
個人のWBに関する基本的な項目	1 5 問	（幸せ）あなたはどの程度幸せか。／（健康）身体的に健康な状態か。精神的に健康な状態か。 （自分らしさ）娯楽や趣味、学びを行うための、自分の自由な時間がある。 （思いやり）他の人のために、親切な対応や手助けをするよう心掛けている。　等
京都市独自の項目	5 6 問	（自然・景観） 自然に配慮した暮らしができています。／日常の暮らしに自然を感じている。 暮らしている地域の景観は周囲の地域と調和している。　等 （文化・学び） 京都にある歴史や文化に誇りを持っている。 京都のまちには自分が成長するための学びや経験ができる環境がある。 京都のまちには時間を忘れて夢中になることや没頭できることがある。　等 （経済） 地元の商店や飲食店を応援したい。／地元に行きつけの商店や飲食店がある。 京都では、時間をかけて磨かれた高い技術や品質に出会えたり、触れる機会がある。　等 （つながり・支え合い） 近所で日頃からあいさつが行われるなど、人と人との関りやつながりを感じる。 私が困った時や苦しい時に身近に助けてくれる人や安心して過ごせる場所がある。　等 （包摂性） 京都のまちでは自分らしい生き方や暮らしを実現できる。 京都のまちでは多様な考え方を受け入れてくれると感じる。 私は国内外の観光客が京都のまちを訪れることを好意的に感じる。　等 （市民参加・シビックプライド） 京都の内外を問わず京都を愛する様々な人や団体と共に京都のまちを良くしていきたい。 自由に住む場所を選べる場合、京都に住み続けたいと思うか。／自分自身を京都人だと思うか。等

1 戦略に掲げた取組の推進

社会全体が大きく変動し、先行きが不透明で予想が困難な時代において、機動的かつ柔軟に市政運営を行うため、客観的なデータや専門的な知見等を基に戦略に掲げた取組を磨き上げ、毎年度の予算編成で推進事業を定め、市会との議論を通じて、本戦略の着実な推進を図る。

2 戦略の進捗管理

戦略の進捗や効果を実質的に把握するため、客観的な統計データや市民の実感に加え、定量的なデータでは捉えきれない実施状況、市民・事業者への影響や満足度、さらには課題など定性的な要素を加味した多角的な評価を行う。

戦略の進捗状況等は市会に報告し、分かりやすい情報発信や見える化により市民と共有することで、取組の深掘りや見直しの議論につなげる。

今後更に、令和7年末策定予定の長期ビジョンを踏まえ、先進事例の調査や大学等との連携により、市民が感じる幸せや生きがいなどのウェルビーイングの見える化を検討するなど、戦略の進捗や効果を把握する手法について磨き上げを行う。